

2021年度研究部年間方針

1, 部員

○中村、安武、菅、大西、大瀬良、志形、笹田

2、あいさつ

今年度より、部員から部長になりました。近年オンラインでの集まりで、なかなか部員同士が顔を合わすことができず、人との「空気感」を味わえないまま、会議をすすめていくことにすごく悲しんでいます。オンラインのいいところはもちろんあると思いますが、個人としてはこれを望んで今があるわけでないのもどかしい気持ちでいっぱいです。今後、コロナが明けて、ハイブリッドになるのか、また、日程を決めて、集まって3局をするのか、話合いたいと個人的に思っています。

しかし、そうは言うてはいられない。自分にできることを精一杯やりながら、「やりたいことをやる」「部員の願いを叶える」ように試行錯誤しながらやっていきたいと思えます。

3, 方針。

- ① 三局の集まりを学びの場に位置付ける。
- ② 幅広く学習していく。
- ③ 同志会の理論を大事にしつつ、how to も学んでいく
- ④ 研究局部以外の会員にも学習できるように宣伝していく

4, 具体的方策

① より

部長自身が経験した中で、従来の三局では、例会に向けて実践報告の準備をしていました。先輩方が先行実践を持ち寄り、若手がそれを学び、自分たちがやりたい実践を創っていきました。実践をする前に理論を学び、計画を立てて、部員が共有してきました。また、実践の途中経過を聞いて、困っていることを共有したりして、「よりよい実践」に向けて調整など行っていました。その経験がとてもよい学びになっていたのも、オンラインではあるが、三局を充実させ、部員の学びの場にしていきたいと思っています。

② と③より

昨今、多忙極める中、実践をすることがなかなかできにくい現状と、その忙しさと三局に集まるのが難しくなりました。研究部例会も今まではほぼ実践報告をしていました。負担と言っては元も子もないことだが、実践報告が少し重荷になっている現状もあります。「実践はしたいけど、学年が・・・」などといった若手ならではの悩みもあり、実践報告のみにせず幅広く学んでいこうと思います。

今年度は、一つのことに研究をまとめずに「アラカルト」形式で学びをしていきたいと思えます。実践から学びが深まりますが、「自分がよくわかってないと学年に提案ができな

い」といった思いもあり、まずは、理論、先行実践を学び、若手の知識を蓄えていく（先輩先生方も振り返りで学ぶ）時期にしたいと思います。

そのために、今まで、同志会の歴史を築いてこられた偉大なる先輩方の話を聞き、学びを広げていきたいと思っています。

4より

今までの先輩方の学びを話していただくことが今年度は多くなりそうです。これを研究局部だけでとどめておくのはとてももったいないと感じます。そこで、三局ではあるが、SNSを通じて、会議の日（学習会）を宣伝し、多くの会員に学びを広げていこうと思います。

5, 今後の予定

10月：船富氏による「じゃまじゃまサッカー」について

11月：古川氏、楠橋氏による「陸上の実践」

12月：各学校の運動会の報告

1月以降は未定